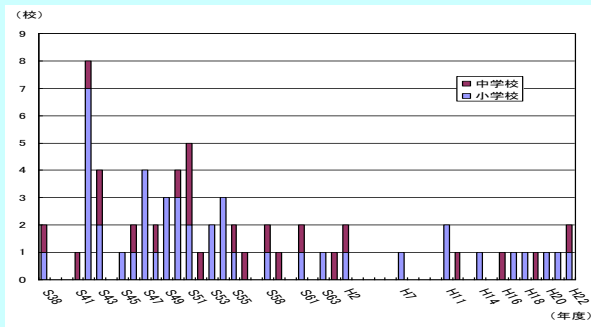


I. 学校施設の現状と課題

1. 学校施設の現状

(1) 老朽化していく学校施設

- 昭和40年代から50年代に建設された施設が多く存在する。
- 耐震化については、平成21年度ですべて補強工事を完了している。



竣工年度別学校数

(2) 学校施設整備の現状と課題

- 各学校の状態に合わせながら安全を確保するため、校舎等建物の外壁や屋上及び校庭の改修、また給排水設備、機械設備及び電気設備等の改修を行っている。
- 緊急課題の耐震化を優先したことや近年の区財政状況により計画的改修が実施できず、学校施設の老朽化が進行している。

(3) 近年の改築・改修実績

- 改築対象校16校のうち3校を当初改築に着手する施設と選定。
- 改修対象校は11校を改修に着手する施設と選定。

(4) 児童・生徒数及び学級数の現状

- 児童・生徒数は減少傾向から増加傾向になっており、平成15年度と比較して平成24年度では、児童数30.7%、生徒数6.0%と増加している。この傾向は今後も続くものと推計される。
- 文部科学省からの35人学級編制等の対応も含めて、普通教室の確保に努めなければならない現状である。

3. 改築・改修にあたっての課題

- (1) 仮校舎の確保
- (2) 改築・改修経費の確保
- (3) 改築・改修手法・手順の設定
- (4) 建築関係法令への適合
- (5) 改築等期間中の諸課題
- (6) 改築・改修後の維持管理経費

2. 学校施設整備の取り組みと課題

- (1) 教育方法及び教育内容の多様化
- (2) 放課後支援への対応
- (3) 自然環境への配慮
- (4) 防災への対応
- (5) 学校施設の向上（ボトムアップ）
- (6) 施設の長寿命化
- (7) 情報化と情報教育への対応
- (8) 安全・防犯への対応
- (9) 地域連携への対応

2. 学校施設整備の基本的な考え方

(1) 学校改築・改修の計画的な推進

- ① 計画的な改築・改修の推進
- ② 施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減
- ③ バリアフリー化の推進
- ④ 現行法令に適合する施設への対応

(2) 特色のある教育に対応した学校づくり

- ① 35人学級編制や少人数学習に対応できる施設
- ② 多目的室や教室から連続したオープンスペースの充実
- ③ 特別支援教育の推進
- ④ 情報基盤整備の推進

(3) 環境にやさしい学校づくり

- ① 雨水利用や太陽光発電、屋上緑化（壁面含）、校庭芝生（CIG）、ピオトープ等のエコスクールの推進
- ② CO2削減の推進
- ③ 資源の再利用
- ④ 温かみのある内外装の木質化

(4) 防災に強い学校づくり

- ① 防災設備の整備と充実
- ② 非構造部材の耐震化
- ③ 雨水貯留施設等の積極的な設置（改築時）

(5) 安全・安心の学校づくり

- ① 防犯対策の整備とセキュリティラインの明確化
- ② 盗撮対策としてのプール屋根の整備
- ③ こどもたちの健康を守る環境の整備

(6) 地域とともに育てる学校づくり

- ① 地域の交流・連携の拠点となる施設
- ② 地域ニーズに合わせた学校施設の有効利用
- ③ 江東きっずクラブの整備と充実

3. これまでの改築・改修の考え方

- 平成8年時は、耐用年数を40年程度とした。
- 耐震補強工事を行ったことから、建物の耐用年数を50年程度とした。
- 改修は建設から25年を経過したものを対象とした。
- 昭和46年以前に建設されたものは、耐力度調査を行い、その結果により改築までの年数を検討した。

4. これからの改築年数等の考え方

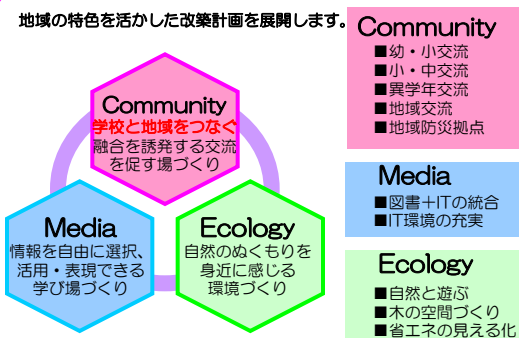
1. 建物の耐用年数を65年程度と考える。
2. 改築は建設年度を考慮し、次の基準とする。
 - ① 昭和56年以前に建設されたものは、50年を経過したもの。
 - ② 昭和57年以降に建設されたものは、65年を経過したもの。
3. 改修は、建設年度を考慮し、次の基準とする。

原則的には初回は建設から25年、2回目は更に20年を経過したもの。
4. 上記の基準以外でも、施設の現状において必要と考えられるものは改築・改修の対象。

II. 小中学校の改築・改修の考え方

1. 教育推進プランの具現化

(1) 改築の基本方針



(2) 改修の基本方針



III. これからの学校施設整備の進め方

1. 今後見込まれる改築・改修実施校

- 昭和56年以前に建築された建物の改築・改修を完了するには、平成25年度～平成31年度までに改築対象校4校及び改修対象校22校の工事が必要。
- 平成32年度以降に改築・改修対象校24校の工事が必要。
- 改築期間：4カ年 改修期間：2カ年

2. 改築・改修に必要な経費の試算（1校あたり）

- 改築にはおおよそ20億円から30億円を見込む。
- 改修にはおおよそ10億円から15億円を見込む。

3. 改築・改修にあたって

- (1) 改築校・改修校選定
 - 基本的に竣工年度の古い順から選定するが、各校の現状と将来予測や財政面等を総合的に判断して選定していく。
- (2) 学校・児童・生徒・保護者・地域へ向け
 - 長期的な視点と適切な周知と説明を行うことで学校や地域住民の理解と協力を得ることが必要不可欠である。